

壽事略記

共 5

50.0

館籍適合教本日入			
一册	一七三號	三架	一七函

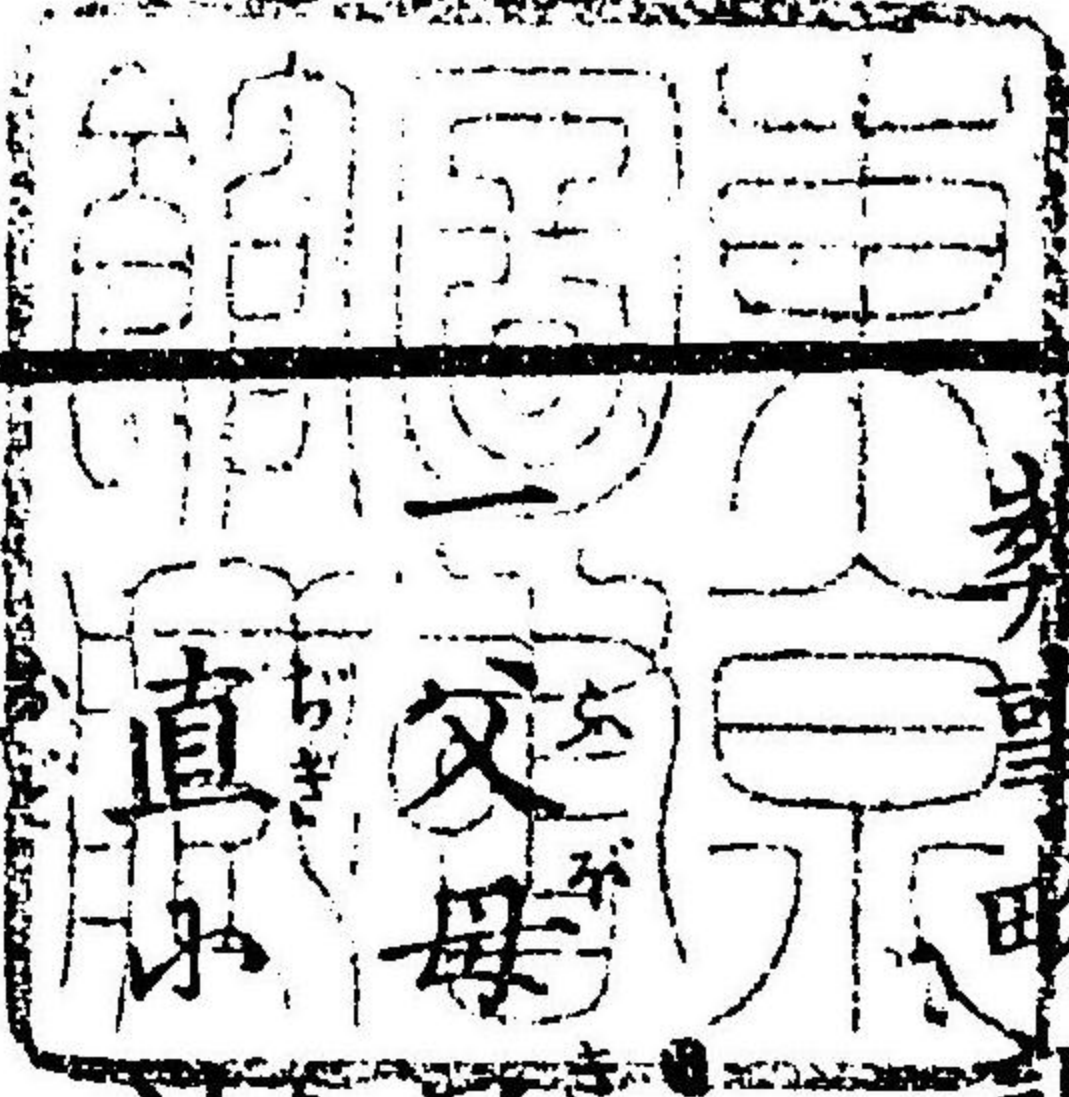




此の條に於ては、親族一家中、於て死とせしむるに當り、  
 一、父母兄弟と始先親族一家中、於て死とせしむるに當り、  
 一、直小神棚、封とべし、是ハ新しき木綿或は紙  
 等に、て一面、小掩ふべし、穢小觸ざる爲あり、尤  
 縁者、懇意の者の内、忌服と受ざるものに、致さ  
 せべし、  
 一、醫師診察書、派添へ、死亡届書、郡區役所、又ハ戸  
 長、役場へ、持參、埋葬證と申請べし、  
 一、教師、小告げ、死失見届より、始り、萬事懇小教諭

葬事略記

中教正 勝田はや子著



一、父母兄弟と始先親族一家中、於て死とせしむるに當り、  
 一、直小神棚、封とべし、是ハ新しき木綿或は紙  
 等に、て一面、小掩ふべし、穢小觸ざる爲あり、尤  
 縁者、懇意の者の内、忌服と受ざるものに、致さ  
 せべし、  
 一、醫師診察書、派添へ、死亡届書、郡區役所、又ハ戸  
 長、役場へ、持參、埋葬證と申請べし、  
 一、教師、小告げ、死失見届より、始り、萬事懇小教諭

成請べし

一 入棺前の死體小衣と掩ひ置親族侍従嚴小守るべし

一 棺の材木ハ槇又松と用ハ檜杉用ふべし

一 神世の御掟あり制作の法死者の丈小

應ト卧さるまゝ寢具とも収るやうに拵べし

一 後世便利小より桶と製し坐棺小をれとも亂

世の止事と得ぬ仕らさかり死者の膝腰と折

り屈めかどをさるハ恐びさる事小ていらに簡

便手輕と思ふとも是のみハおゝるよたやう

小臥棺に成べし

但墓所ふと手狭小て法らへあるハ是非小

く坐棺小をさる事もあるべし第一生前小本

人の望み又ハ喪主の好み小て坐棺小する

ハ勝手さるべし坐棺ハ四角小造るべしか

あらと六角など小法くるへあら次

一 槲ハ松楠を用ゆべし厚さハ九三寸位より

底小し四方成棺よりハ九三寸余りひろく

棺を容れて空隙に炭末と築い孔て蓋石と

べし

一死者の着物改むべらら次別べつ新衣あらさまの以仕立上しとに着きてべし是これの身みの分限ぶんげん當主たうしゅの志こころふより絹きぬ晒布あびぬ或ハ木綿もめん等ら小て作つくるべし叔棺しやくくわん小収おさり其その面おもて小覆おほひとさし是これも縮ちぢ或ハ木綿もめん等ら當主たうしゅの志こころは任まかせ  
一充囊あつものハ布ぬの小て囊ふちの如ごとく作つくり綿わたといれ其その數かずと大小おほきちひとハ適宜よきかど小てべし貧賤ひんせんのものハ紙袋かみちうらに燈草とうそう又ハ鋸屑のこぎりくづ以もちて用もちゆべし  
一刀劍いっとうけん等ら其人そのひとの身分みぶんに應おこじ形代かたしろと造つくり棺くわんに収おさむる事喪主こともしゅの心任こころまかせとべしさて動うごらぬ様やう小

石灰いはい或ハ炭すみ或ハ靱かハ清きよ火ひ藁わらの類るい袋ふくろに以もちて堅かたくつめ蓋ふた成なりか釘くぎ小て固かり四方内外しほううちそととも合あせ目めに松脂まつやぶの類るいと塗ぬべし  
但形代かたしろハ其形そのかたちと木き小て作つくるかり  
一墓誌かぶハ銅板どうばん小官位くわんゐ族籍ぞくせき姓名かきうりの生な死し年月日のどつきひを彫う刻くてべし凡紙おんし一枚位いちゐの程ほど小て練瓦れんが小てとさみ針金はりかねと以もちて十分卷じふぶんまきかさむべし  
一死體したいと素裸すなはだ小て沐浴よくよくするかと其人そのひとを耻ちらむる理りよ近ちかし必かならずとべららけいか小洗あひ濯そぐとも清淨きやうじやう小てはならぬ物ものなり又死者またしやを

永く留置臭氣かど出むも其人の耻かれ其

心配有べし

一 埽水行事散米行事切麻行事教師小依頼一

間と清浄おとべし

一 誄申文魂招詞祭文其他祭式の事一切教師小

依頼とべし

一 棺の上に布を覆ひとる一 豎小左右小擔木と

結付新薦と敷き枕の方で拜む様に居る神酒

飯魚菓物野菜海苔類は始先生前好める品と

も机お備へ親族縁者打寄喪主誄以申す喪主

ハ嗣子とるべしいまと嗣子なき人の近親の

者勤むべし

文例

敬比謹美何々乃御魂乃前白久此日頃篤利

志御病心平盡豆種々尔療志奉加得堪不給

且終尔身罷給礼比嬖手巻繰返志悲毛豆驗無婆

世乃理乃任尔奥城尔奉藏須登此状平久安

久聞食登畏美畏母美白須

一 拍手再拜とべし

一 喪主及び親族同音神徳經と讀誦とべし

一葬地ハ成丈けふかく堀べり一丈より浅くす  
 通から次是古法ふり志かくなら其場の摸  
 様或ハ今限より其程お應ト見とらひ有  
 へき事ふり  
 一送葬夜中とるべり支宜小より晝間から成  
 丈け黄昏小とべり行列ハ提燈一對次小散米  
 次ハ神次ハ靈標次小棺と定む庶人ハてハ肩  
 にあげてかほぐべらら返べり  
 一墓所小至り棺と程よた所ハ居る其前に新薦  
 と敷き喪主着坐して申文とよむ文例左のぞ

と

何靈乃 柩乃 前ハ白久 今日半限止 奥城棄戸  
 伏世奉 留事波 家族乃 心波 悲久 悔久 不飽思奉  
 止礼 現世乃 定限 志有 婆此 墓所 乎千代乃 任處 止  
 定奉 互藏奉 利仕奉 留状 半平久 安久 聞食此 乃  
 奥城ハ鎮坐止 畏美 畏母 白須  
 一拍手再拜とべり  
 一喪主たよび親族同音神徳經以讀誦とべり  
 一申文神徳經奏讀相濟棺と人の向ひて拜む方  
 以枕ふりて埋み其上と堅く築立木標と立假



に家の形此覆被をく左右小神或ハ時花等手  
向洗米鹽水獻備とべし

一喪主及び來會の人々小玉串被捧げ手をうち  
つゝし又拜て退くべし

一葬の事畢てさる所かくがせんをへなけまど  
もく便よ此所あらぬ河邊小至りて身滌とな

して後家ゆ歸るべし家内もまよ不淨の物こ  
とくく捨て掃除とふく下間を清り靈魂と

祭るべし靈代ハ檜木ゆて作り喪主ゆて名被  
認む通し此法未奈寸尺ハ好みゆ任と九四五

寸あるべし床小新薦と敷き机と居る靈代と  
安置とべし神又時の花清水酒飯魚野菜菓物  
且生前小好める品被備へ魂招とべし

文例

何々乃靈乃前爾白久佐此日頃家人等枕邊爾侍

比脚邊爾集比勞利奉加利志乃驗毛遂爾不著

隱坐かぐみ連家人等乃歎支無言計故天翔坐神魂

乎此乃小床爾招奉利齋奉利御食御酒種々物

奉志奉里鎮祭留事乎平久安久聞志受坐ま鎮

利居坐止輿床乃前爾膝折伏頸根突て神魂招

乃詞恐美恐美白須

一柏手再拜とべし

一神徳經と讀誦とべし

一五十日の間墓參急るべし

但父母夫の五十日の間祭るべし其餘ハ三

十日の間祭るべし

一五十日終らば教師と頼み家内の被ひと致し

神棚の封と解き始て神前と拜む此日先祖の

靈屋の合せ祭るべし

祭文例

謹美敬比何靈乃御前尔白須阿波禮世乎去之

豆與利家人等朝夕歎支慕比都須須呂尔日歎

經往豆今日五十一日日止云日尔成婆礼此乃靈

舍尔奉移利奉齋豆種々乃机代乃物取並豆御

饗奉利御祭仕迎奉留平久安久聞食長此乃

靈舍尔鎮利坐止白須辭别豆遠津御祖等乃御

前尔白須今日波与利何某乃御靈乎此乃靈舍尔

奉移奉坐御饗奉留甘娘安娘聞食諸共尔鎮利

坐志生子乃八十繼乎彌遠長久護利幸迎坐止

白須

一 拍手再拜とべし

一 神徳經以讀誦とべし

一 毎年命日ハ靈祭とあはせべし又先祖たしあべ

て春秋二度よは日以撰て祭るべし

一 父母及び夫の喪ハ一周期より産土神以

しり諸の社とたろかみ奉るべし

一 五十日の内十日毎ハ祭るべし

祭文例

此乃奥床尔坐須何御靈乃御前尔恐美謹美白

須由平安良聞食止白須何靈伊現世乎去坐与

利月日乃歩波暫毛不駐早四十日、廿日、三十日、止

云日尔成婆連家古曾利豆俚比思布進尔美御魂

乎慰米奉良年止御食御酒進米奉豆今日乃御

祭仕辺奉留甘尔良安良聞食止白須

毎一年の祭ハ小ハ早一年二年ハ成奴礼婆と

一 拍手再拜とべし

一 神徳經と讀誦とべし

一 五十日過かば墓碑と立べし

一名と記と事今浮屠小て戒名以必附る事小と

れとも佛經小もとよりたし異邦小もせぬ事

小や支那僧來朝の時其親の神主と持來り  
小何々孺人神主と題せりと我師の語られ  
事と聞けり身釋門にて如此ふれば戒名の彼  
法おもなき事と思はるまゝて御國と歿後の  
名とても生前ふかえる事あるべからばより  
て位階ある人の何々朝臣何々夫人齡ある人  
の翁嫗押通りの主まゝ磨刀自戸賣若き男子  
の郎子女の郎女嬢ふと書稚き者の男女とも  
稚子まゝ若子下さまの男と彦女と女と書べ  
きかり

附り靈壘の檜木にて凡長四五寸柱のごと  
く方ゆいて踏返つけ案と具と積長五六寸  
小して前のかと小少に穴とあけて靈代の  
上にたねへ肥の帛と四方に縫ひて積の上  
にかけ高案の上にて置くべし  
一氣息絶て後二十四時を経て葬送せべし  
一祭式の文例記といへとも中ふの文字に親  
まぬ人々もあるべしよりて式を取行ふま  
をべて喪主より教師に依頼せべし死者の男  
女老幼の別ちあれ祭文の書法まゝ文章の

長短且死者の履歷等の機小臨み時小應<sup>お</sup>教<sup>け</sup>  
師とるもの、心得あるべき事あり

追加

一 銘旌ハ白絹白布と用以全幅長七尺あるべし  
其官位姓名之柩と志るにべし尤官位を以人  
の用ゆべし紅白旌幾流ゆても當主の志  
小任と柄長の白張の傘<sup>かさ</sup>或布袋にいせ持べし  
庶人の用ゆべし白杖二竿長七尺皮付と  
る細丸木と持べし開道者左右に並びて是  
以肩小とこれも庶人の用ゆべし竹杖ハ

長四尺餘布袋にいせ持べし辛櫃ハ墓所小用  
もる諸具といせて荷ふべし

一 若し肩輿<sup>かみこ</sup>小て葬と送る時の位階ある人多り  
とも銘旌の類ハ悉く棺小納めて後肩輿小棺  
と乗とへし

一 新小墓地は求りん小の土厚く水深く土色光  
潤草木茂盛後年道路および溝おと小からん  
未耜のおよとさらん地とあらかしり撰ふべ  
し

但墓所と開かん小の先土地神<sup>かみ</sup>以記るべし



墓標一基

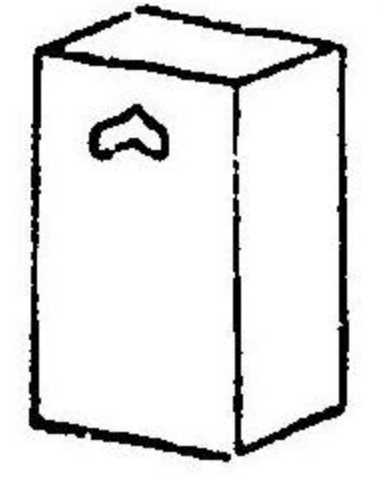
其年某月日卒  
故官位姓名之墓

霊主

銘旌



裏ふ年号月日  
及齡何歳と  
記とべし  
官位有らハ  
姓名の上  
記とべし



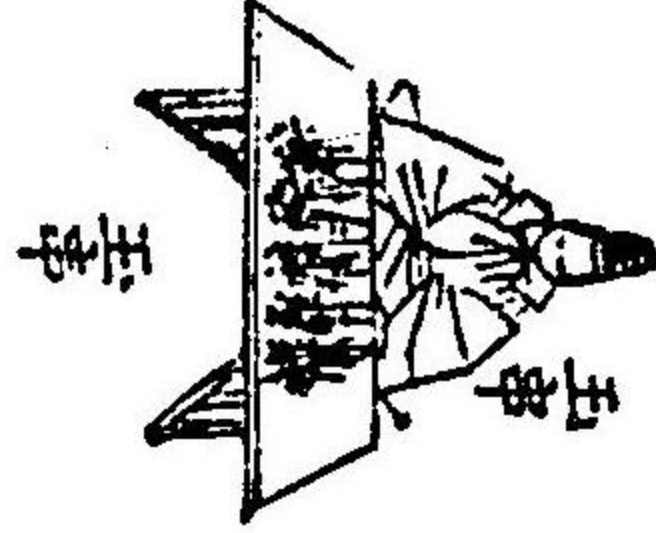
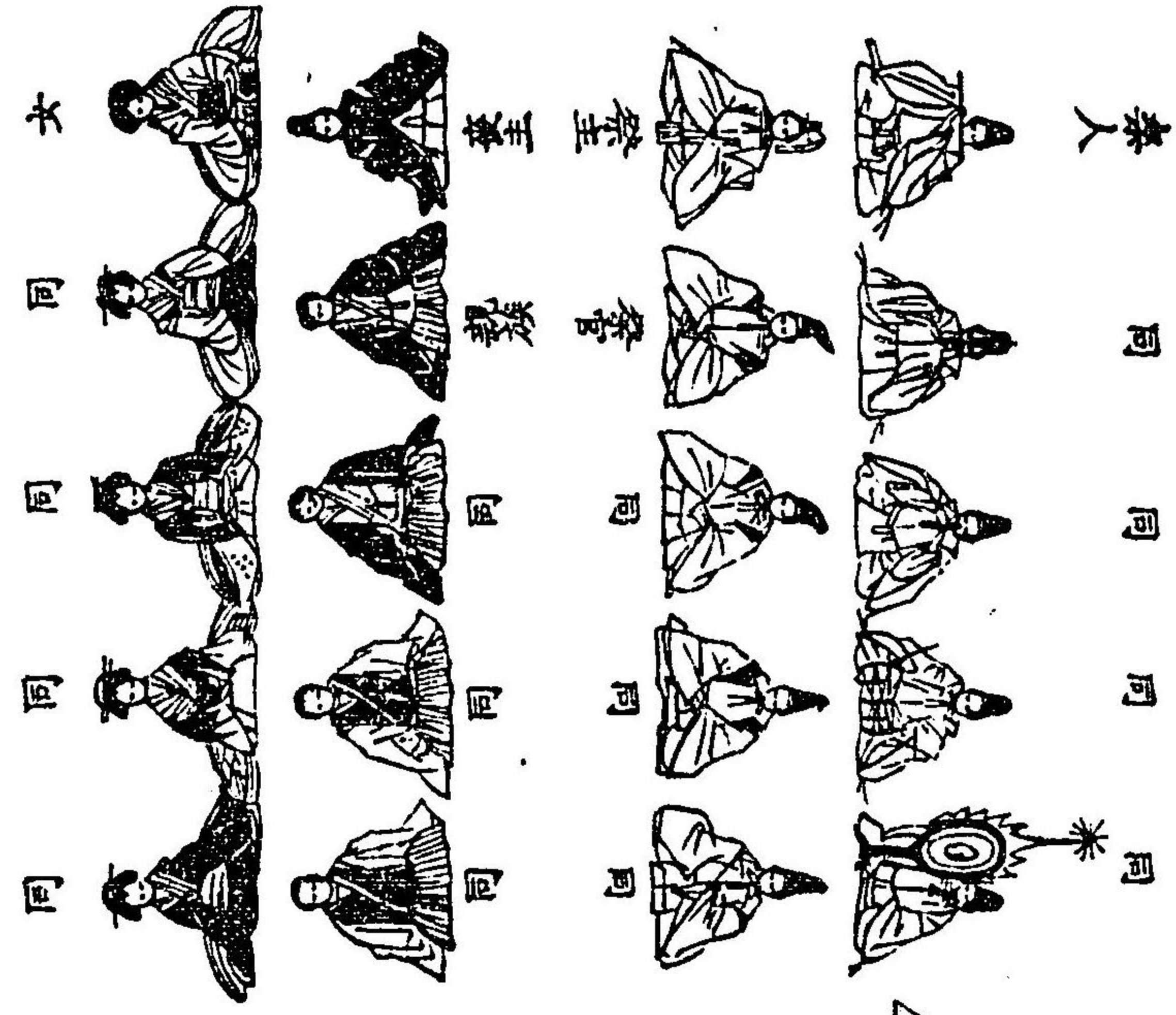
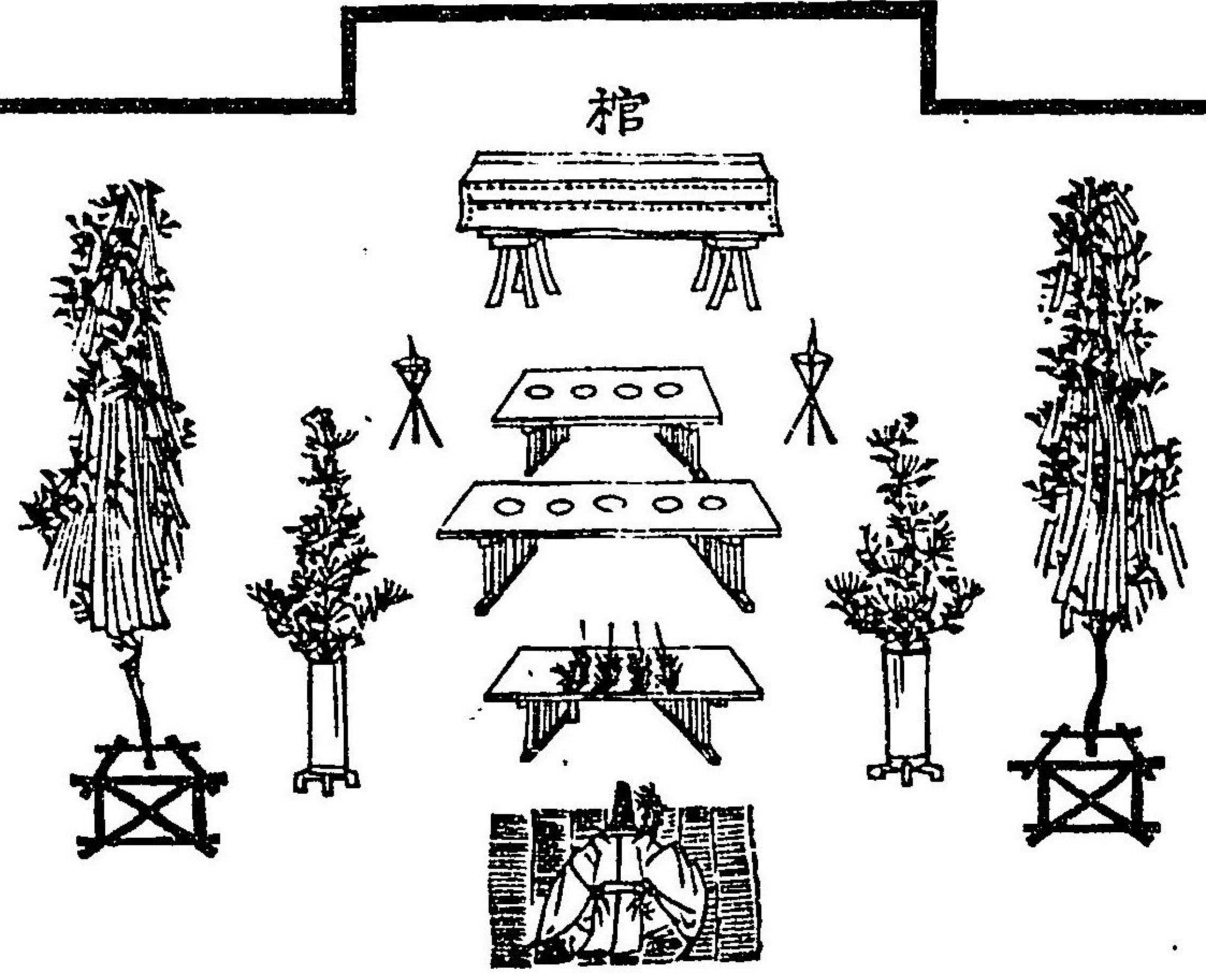
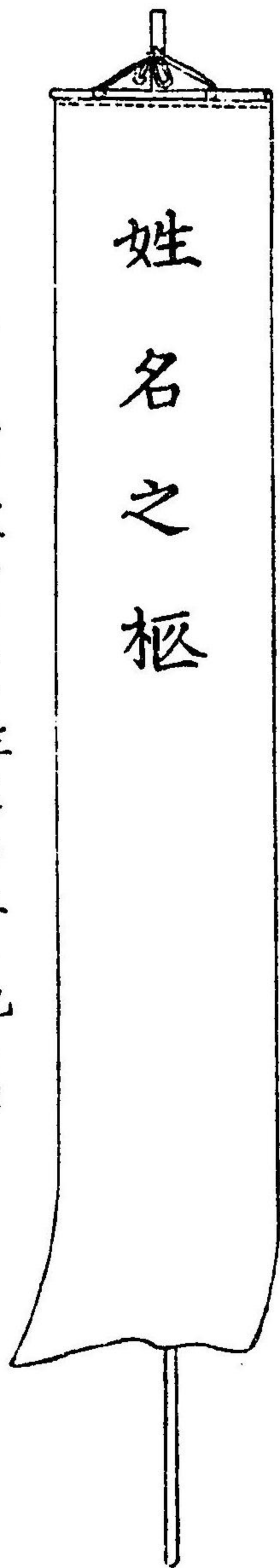
積

墓誌

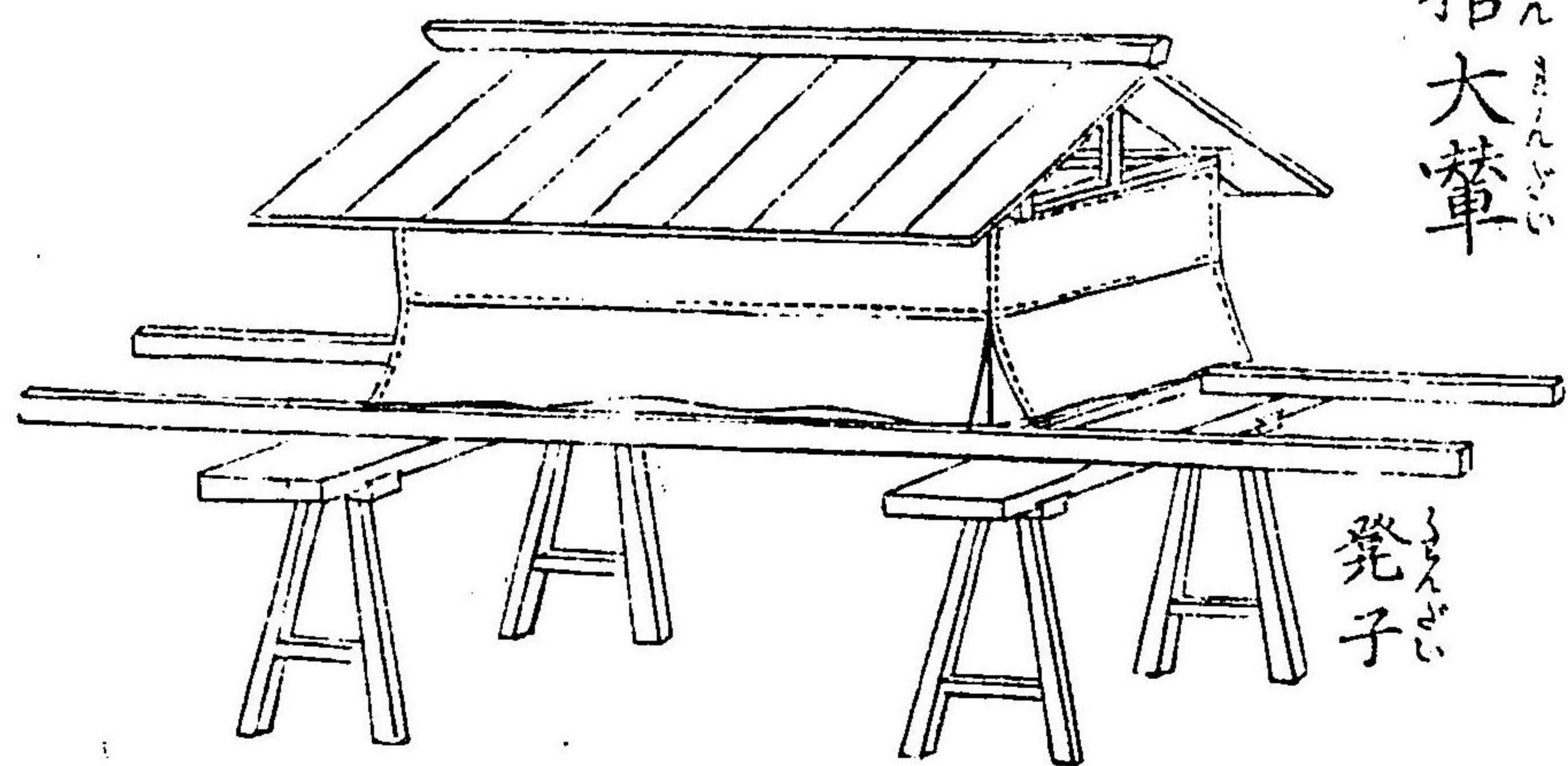
故官位姓名之柩  
年号月日卒

姓名之柩

官位有らハ姓名の上記とべし

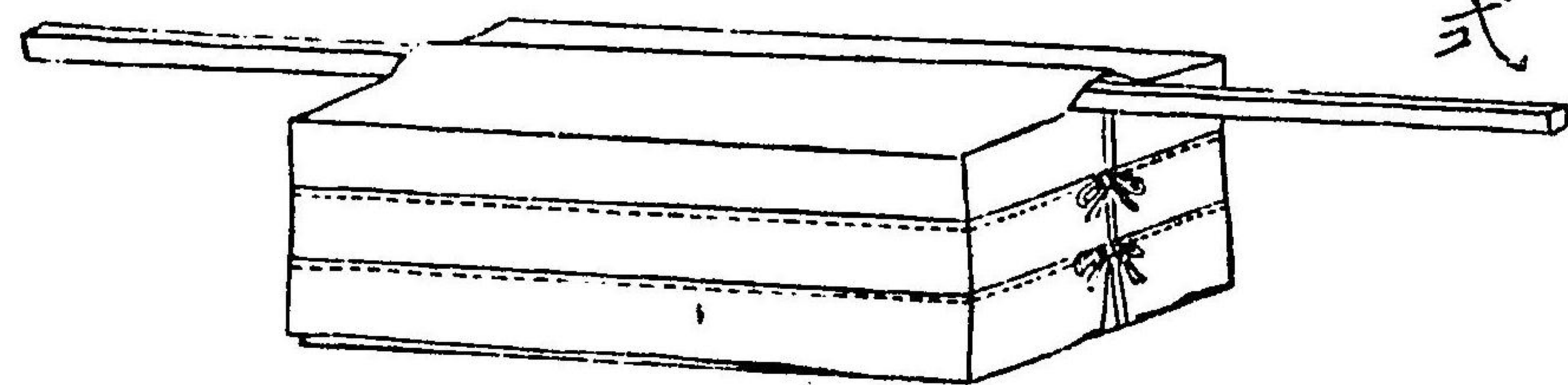


長棺大輦



凳子

同略式

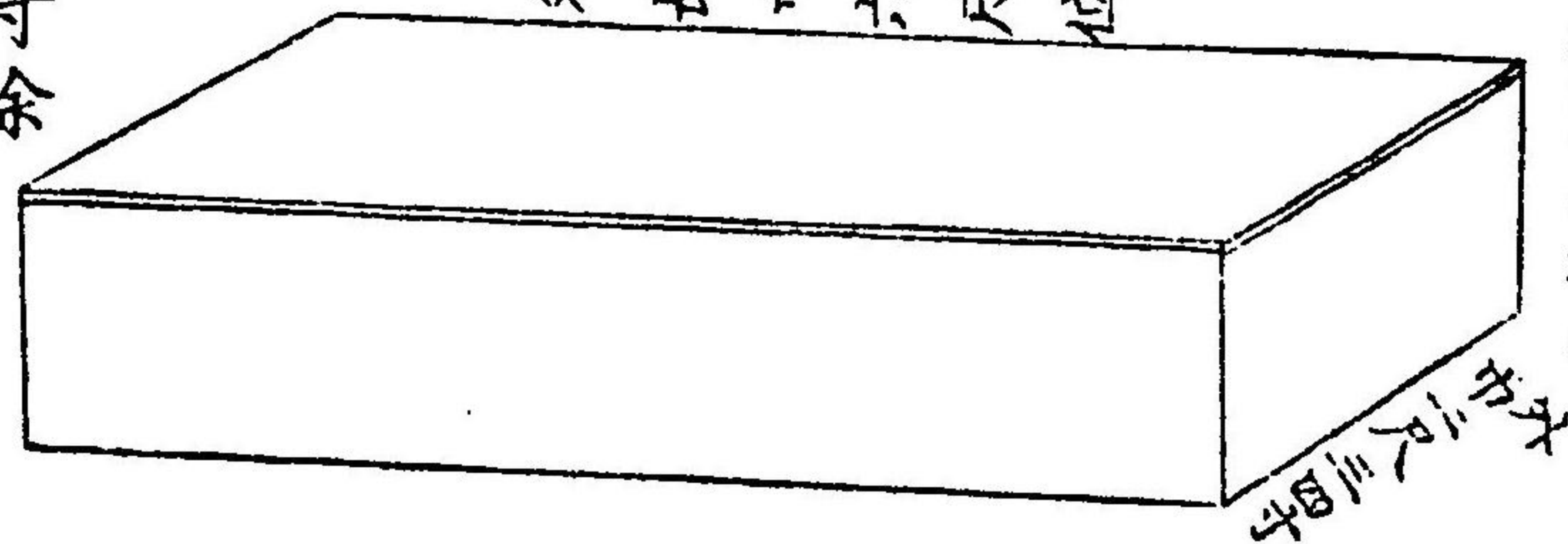


棺

高廿尺三寸位

外長十六尺位

板厚サ  
一寸余



蘇我武烈よとら人の身は一世の去禮の申は  
 終の去禮おし護嚴ふりおるにりおる  
 志のふあねの身のりもあつて人々  
 され申央御勅書とる。て教後等に  
 志のふあねと我杖桑教の政後長は尊權大  
 教正の物に麻小外おのる事記を成れ  
 うらねも事あふりて終り



大日本皇朝の歴史に其遺教を愛護  
 親母の人より時枕邊お侍らひ朝宗  
 いまあふ歩。一まの成らるる河海を法く  
 海ひらきし禮教を重んじて懐妊なく文  
 別紙かく其書ありし中教心宗理觀子  
 法に記されし華書略記と題し書  
 之。一。明治十七年十二月廿五日御届

明治十七年十二月廿五日御届

同町同地

著者

勝田津也子

芝區

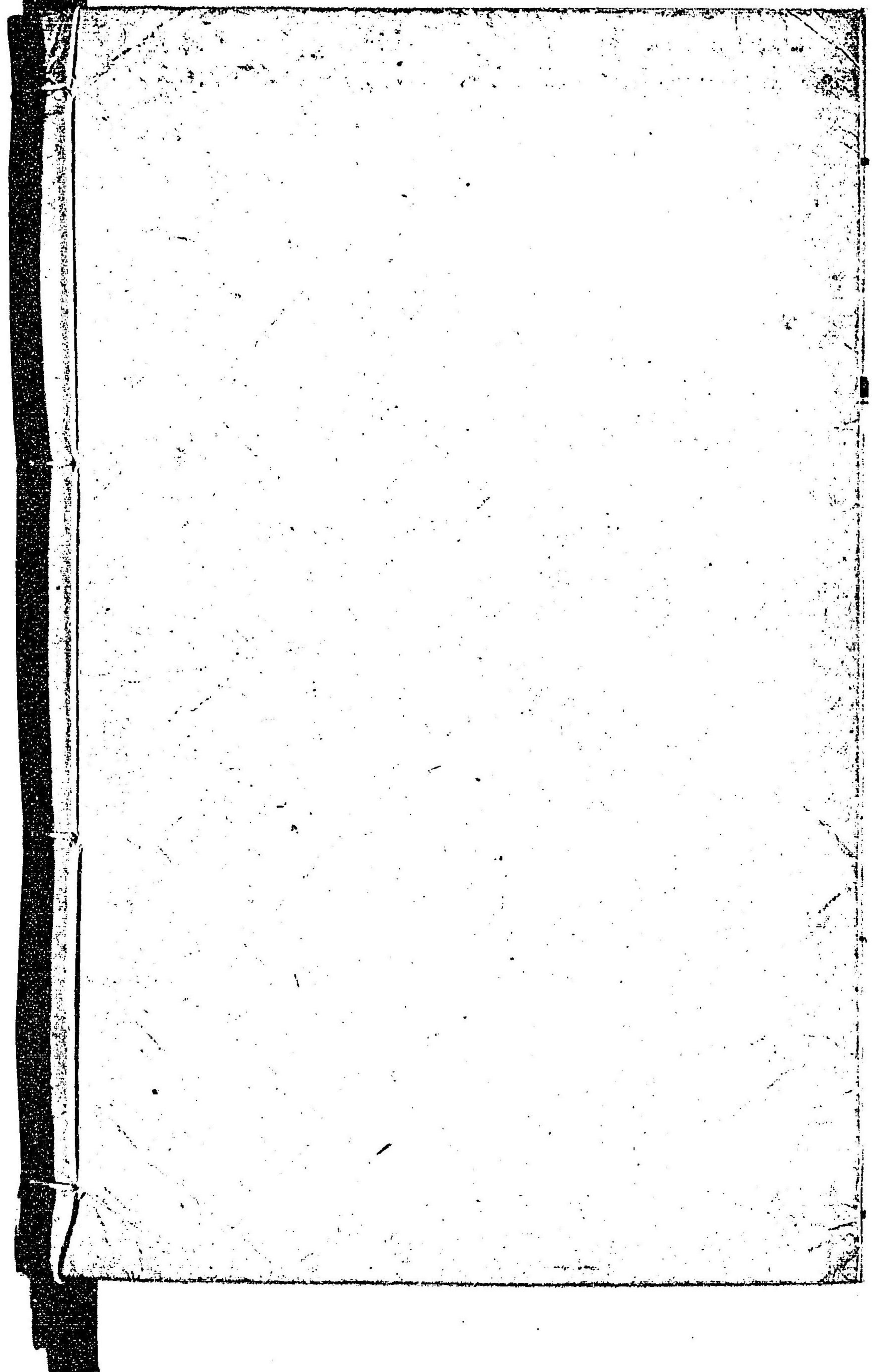
神明町拾五番地

出版人

扶桑教講學校

同區

同町同地



特35

809

館蔵書會百教本日大

一	一	一	一
册	七	三	七
	三	架	函
	號		

014339-000-3

特35-809

葬事略記

勝田 津也子/著

M17

ABB-0690

